

「不満のなぜ？」は、むろん中学生だがが発しているわけではなく、老若男女を問わず、至る所で日常的に交わされていると思います。

老生も折々、「不満のなぜ？」を心の中でつぶやいたり、口にしたりしています。

「なぜ交差点内で追い越しをするんだ？」（危険極マリナイノデ、止メテクレ。ソモソモ交通違反ダ。急イデイタ？ソナナコト理由ニナラナイ。）

「ここは、車いす使用者など身体の不自由な方の専用駐車スペースです。」という案内やマークのある駐車場所、なんで健常者のドライバーが駐車するのだ？」（嘆カワシイ限リダ。所定ノ位置ニキチント駐車シナサイ。混ソデイタ？ソナナ理由ヲ訊イテイルノデハナイ。）

テレビのワイドショーでも、「不満のなぜ？」をよく耳にしますが、ごく一部のメディアは、二つの「なぜ？」を故意に混同することによって、扇動的な報道をしているような気がしてなりません。事件や事故の当事者に、反省と謝罪、決意を申し述べるしかない「不満のなぜ？」をぶつけておきながら、「知的欲求のなぜ？」の答えを要求し、そこに当然生ずる矛盾や曖昧さを根拠に、「当事者としての使命感や見識、誠意が感じられない。反省も乏しく、事の重大性を認識していない。」と煽るのです。

「知的欲求のなぜ？」と「不満のなぜ？」は、理由を問う言い方である点は共通しています。しかし、相手に求めているものは明らかに異なります。

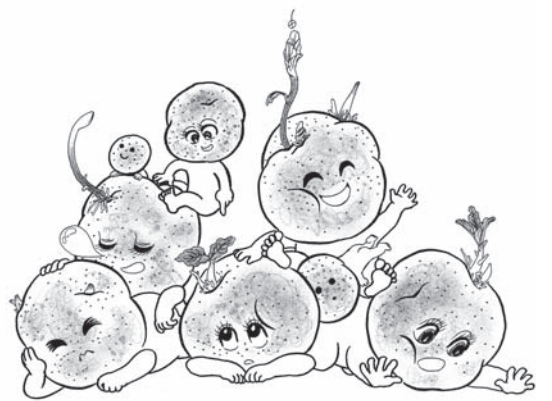
特に子どもの「不満のなぜ？」には、大人や大人社会に対する反抗心や不信感などを背景に、次のような感情やメッセージが込められていますので、十分留意する必要があります。

○その子は、「不満のなぜ？」の根底に、そのことに対する反発を抱いている。

したがって、決して理由を知りたいわけではなく、そのことを止めて、自分の要望や主張を許認可してほしいというのがその子の本意である。

○「不満のなぜ？」を次々に発する子は、深刻な成長上の課題を抱え、「不満のなぜ？」を通して、もっと自分を親身に、温かく見守ってほしいというメッセージを無意識に表出している。

したがって、「不満のなぜ？」に対して、そのことごの目的や理由、根拠、利点、経緯などを何十、何百と列挙しても、まづ納得には至りません。大人の剣幕に押されて、渋々納得したような態度を示すことはあるかも知れませんが、自分の要望や主張が全面的に受容されるか、その行為が許されるかしない限り、その子は納得しないでしょう。



そのため、子どもの「不満のなぜ？」に対して、「知的欲求のなぜ？」の答えに終始しますと、子どもとの意思の疎通に大きなズレが生じ、時には子どもとの信頼関係に深い亀裂が入ってしまいます。

学習することの目的や意味を見出せず、どうしても勉強する気になれない子が、親や教師に、「なぜ勉強をしなくちゃいけないの？」と問うことがあります。

このようなとき、親や教師が、「人格形成のために必要なのだ。」とか、「学業は学生の本分だ。」とか、「高校に合格するためだ。」とか、また、「この教科で習ったこの知識や技能は、将来、こういう場面で役立つ。」とか、既に子ども自身が知識として知っている「正しい理由」を挙げ、必死に納得させようとして

も、すればするほど、子どもとの気持ちのズレが増幅してしまいます。

なぜなら、この「なぜ？」は、理由や真理を問う「知的欲求のなぜ？」ではなく、屈折した複雑な感情を表出する「不満のなぜ？」であるからです。

そこで、この二つの「なぜ？」を混同せず、子どもの勉強をしたくないという気持ちを全面的に受容し、共感することが大事になります。今、子どもに学習意欲を抱けない何かが起こっていると受け止め、一緒に悩み、考えながら、親（教師）としての切なる思いを子どもに全霊で伝えていくことが、子どもの気持ちにより寄り添う接し方かと存じます。



子どもが発する「知的欲求のなぜ？」と「不満のなぜ？」を判別するマニュアル……？

そのようなマニュアルはありませんので、子どもの口ぶりや表情、態度などから感じ取るようにしましょう。自信がない……？

では、「なぜ？」を発した子ども自身に、その動機やその時の気持ちを確かめてみましょう。

それでもはつきりしない……？  
ならば、それは「不満のなぜ？」です。